

麦生産拡大・品質向上研修会が開催されました

農業試験場

県内外の製粉会社、精麦会社といった実需者や、小麦や大麦の生産者、ＪＡ、全農長野、県関係者など、約 50 名が 5 月 30 日に当場に参集し、麦生産拡大・品質向上研修会が開催されました。午前中は、県農業技術課から麦の生産振興方針及び経営所得安定対策への加入について説明があり、全農長野からは麦の流通情勢についての報告がありました。また、各普及センターから県内の麦の生育状況や現地試験の状況について報告があり、当场からは追肥試験等についての取り組みを報告し、品質向上に向けた研修を行いました。

午後は、麦類の土壌伝染性ウイルス病害の対策について研修を行い、次に、試験場から有望系統を紹介して実需者との意見交換を行いました。小麦では、現在の主力品種である「シラネコムギ」から縞萎縮病に強い「東山 48 号（ゆめきらり）」に替えるにあたり、品質の安定的な向上が強く求められました。食用大麦では、生産量の増加や、新規需要としてモチ性大麦の普及が要望され、新品種を期待する意見が出されました。最後に、当场八重森庁舎の育種ほ場や栽培試験ほ場の立毛検討を行いました。モチ性大麦として有望な新系統については期待が大きく、今後の品種化に向けた取り組みを進めてまいります。



技術館での研修の様子



ほ場での立毛検討の様子

担当者	細野 哲	電話番号	0 2 6 - 2 4 6 - 9 7 8 3
-----	------	------	-------------------------

[試験場だより 442 号へ](#)

[農業試験場ホームページへ](#)